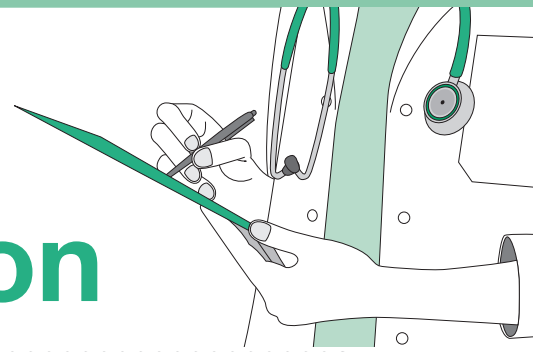


# Clinical Question



## Q6 HPP 患者へはどのような歯科治療が行われているのですか？

回答 大川玲奈

大阪大学歯学部附属病院小児歯科 講師

A

歯周組織を守る処置を行うとともに、歯が脱落した箇所は義歯で補います。

### 解説

#### 1. HPP の歯科合併症

低ホスファターゼ症 (hypophosphatasia : HPP) はさまざまな歯科合併症を伴い、代表的な主症状の1つに「4歳未満の乳歯早期脱落」がある<sup>1)</sup>。乳歯は生後8ヵ月頃に下顎の乳中切歯(前歯)から萌出が開始し、6歳前後から永久歯が順次萌出する。永久歯への交換は、乳歯の歯根が生え変わる永久歯に吸収されて脱落する。しかし、HPPの小児の乳歯は萌出間もない1~4歳にかけて、一般的な生え変わりの時期よりかなり早く脱落することが多い<sup>2)</sup>。そのため、乳歯の歯根は吸収されておらず、歯根が長いまま脱落することが特徴である。

コラーゲン線維でできている歯根膜はクッションのような役割をもつ組織で、歯根表面のセメント質という部分と顎骨の間に存在する。歯はこの歯根膜によって顎骨とつながれている。HPPの小児の乳歯では歯根のセメント質が形成不全のため、歯根膜を介した顎骨との接着が十分ではない。この脆弱な歯周組織に軽度の外力が加わることにより動揺が生じ、脱落に至ることになる。乳歯が早期に脱落すると、審美性が悪くなり患児の心理面

に影響を及ぼすだけでなく、乳歯喪失部位に舌を挟むなどの異常嚥下癖は開咬(奥歯を噛み合わせた時に上下の前歯が噛み合わずに隙間が存在する)などの歯列咬合の異常にもつながる。

また、乳歯は永久歯が生えてくるスペースを確保するという重要な役割があるため、永久歯の萌出スペースの減少は叢生(ガタガタした歯並び)などの歯列不正につながる。さらに、乳歯列期は発音機能や咀嚼嚥下機能を獲得する重要な時期である。乳前歯を喪失すると、食べ物を噛み切ることができないだけでなく、空気が漏れて「サ行」などの発音が悪くなることも知られている。

#### 2. 歯周状態の管理

歯周状態を管理することによって、脆弱な歯周組織であっても可及的に乳歯の保存を試みるのが重要である。一般的に動揺歯は清掃困難で、歯垢(デンタルプラーク)が凝固して歯石が沈着しやすい傾向にあるため、定期的に歯周組織検査によって歯周ポケットの深さと動揺の度合いを把握して、歯磨き指導やデンタルブラークおよび歯石の除去を行う(図1-a~c)。歯磨き指導としては、ヘッドの小さい柔らかい毛先の歯ブラシを使用し、バス法で歯周ポケットを意識したブラッシング法を指導